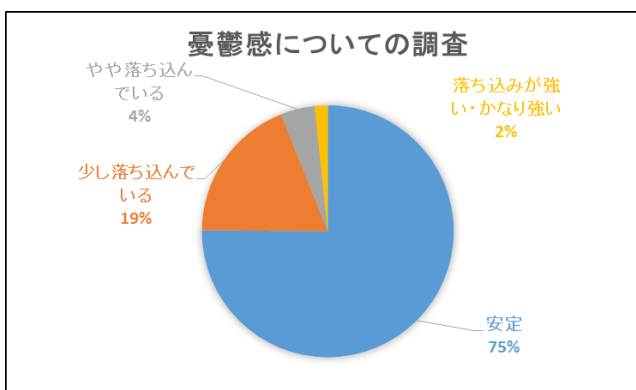
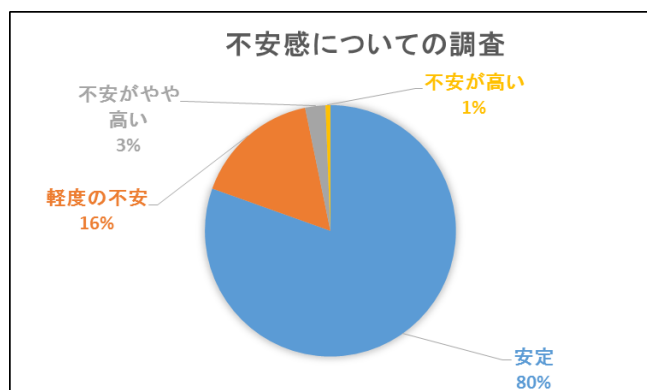




「メンタルヘルスに関する定期調査」にご協力ありがとうございます。6月11日までに957名の方が回答してくださいました。その中にある調査の結果を報告します。



前回報告した5月の調査結果と同様の結果となりました。今まで結果はこちらのサイトの「メンタルヘルスだより」をご参照ください(<http://www.tmd.ac.jp/hsc/index.html>)
自由記載コメントの中で、環境が変わったことで人間関係の難しさを感じているという声や、スタッフにどう対応したらいいかというご質問を頂きました。これらの背景には COVID-19 における3つの感染症があると考えられます。

第1の感染症：ウィルスにより引き起こされる疾病そのもの

第2の感染症：感染する事やウィルスに関する不安や恐れといった「心理的感染症」

第3の感染症：不安や恐れから「嫌悪・差別・偏見」を生み出す「社会的感染症」

COVID-19 も無症状無自覚感染の問題が言われていますが、不安も知らぬ間に人から人に伝わります(第2の感染症)。意識しないまま避けてしまったり、いつもなら言わないような心無い言葉を言ってしまったり、「安全」という名の元、COVID-19に感染したスタッフ、対応したスタッフを極端に隔離してしまう事もあります(第3の感染症)。

第2、第3の感染症の怖いところは、心理的距離がスタッフに生じそれぞれが孤立してしまう危険性をはらんでいる事です。この心理的距離は働き方が多様になったことでも拍車がかかっています。「人間は分からないもの、目に見えないものを恐れる傾向がある」という前提の元、誰しもが囚われやすい(感染しやすい)問題として、頭の片隅に止めておいてください。特に上司・指導者の立場にいる方が積極的に意識していただけると、組織での感染が防ぎやすいです。

特に疲れている時、忙しさや不安で自分に余裕がない時にこの感染は起きやすいです。次回以降、第2、第3の感染症を防ぐ(解消する)ポイントについてお伝えしたいと思います。

❀保健管理センターの場所・問い合わせ先❀

❀湯島キャンパス 5号館 2階

TEL: 03-5803-5081

E-mail: soudan.hsc@tmd.ac.jp